

「数日前の天気予報では晴れだったのに」と、朝から時折降る雨にボヤキながらはじまった「イワクラ研修ツアー」。榛原駅から出発した約二十人のメンバーがマイクロバスに乗り込み出発。国道369号線を曾爾方面に向かい、途中から約二キロの林道を最初の目的地である嶽の立石に向かつて走る。くねくねと曲がりくねった林道の奥深くの道路わきに立つ大きな石。そこでバスを下車。「これが立石？」と聞く参加者。「いや、これが入口ですよ」と、案内の柳原氏。そこから数十メートルほど山を分け入ったところに、「嶽太郎」が鎮座していた。地下から巨人の指が天に向かつて伸びているさまは異様だ。それから急斜面をくだり、反対側斜面を谷間にそって下る。百メートルほど歩くと左上に立石が林立している。「嶽一郎」「嶽二郎」と続く風景は、竹の子のよう。

## イワクラ研修ツアー 榛原の巨石とイワクラの道」見学レポート

山添村いワクラ文化研究会副会長

奥谷和夫

続いて、バスを林道の突き当たりまで走らせる。その頃、小降りだった雨は本降りに。しかし、参加者はビショ濡れになることも構いなく斜面を駆け上った。バスの斜め上の山に「蛇石」が横たわっていた。長さ5mほどの石の上部に蛇が這った様な溝がついている。元の林道を入口付近まで戻ったところには「寝石」があった。

幅20mの角閃斑レイ岩でできた溪



室生磨崖仏



立石

大な磨崖仏が見学者を圧倒する。そこから広域農道を北へ。室生村と山添村との境界あたりの笠間川沿いにバスを止め、小さな橋をわたり向側の「永仁二年磨崖仏」を見学する。半肉彫りの磨崖仏が参加者を見下ろす。

続いて山添村に入り、地上の「天の川」、鍋倉溪へと向かう。鍋倉溪は神野山の中腹にある長さ約650m、

谷である。累々と横たわる岩が雨に濡れていつそう黒さを増している。数日前「朝日新聞」で紹介されたので、大阪からも見学者が来ている。そこで一同記念写真を撮った。



編倉溪

夜は、宿舎である「アートスコープはかた」で夕食を兼ねた交流会が持たれた。東は九州から西は関東まで、全国から集まった参加者が自己紹介と参加しての感想などを述べあい、夜遅くまで語りあった。

2日目午前中は、山添村北野の枡型山の登山からスタート。道は整備されているものの急勾配。若い参加者でも音を上げる。ところが、参加者で最年長の伊藤さんは、二十代の萩原君に手をひかれながら元気に笑顔で坂道を登る。

約30分かけて「岩屋」にたどりついた。直径十メートルを超える巨大な傘の開いたキノコのような「岩屋」を目の前にして、参加者は「おつ」というような感嘆の声をあげる。山添村いわくら文化研究会の奥谷副会長が、「岩屋」の奥の空間を指して、「日没の太陽の光が奥の壁に差し込む。これを観察して、季節を知る暦の役割を果たしていたのではないか」という説明に納得する人、首をかしげる人。それからさらに数十メートル登ると「枡型岩」が見学者の行く手を阻むように屹立している。十五メートルほどの巨岩の壁である。上部に名前の由来となっている枡型が彫られている。

続いて奈良市の水源となっている布目ダムの堰堤から1キロばかり入



岩屋

ったところ、丹生町の入口にバスを止めて、植林した杉の木立を掻き分けながら北向きの急斜面を百メートルほど登った。稜線付近にピラミッド状の主石を中心に、三つの巨石のシルエットが見えたが、斜度三十度はあろうかという急斜面のため、なかなか現場までたどりつけない。杉の木立につかまりながら、稜線にたどり着いたときは、息も絶え絶え。月ヶ瀬の小山さんが「この山の頂上

付近には沢山の巨石があります」と説明してくれたが、一同話だけを聞いて下山。丹生の「千体地藏菩薩」が彫られている岩など周辺の巨石を見学した。

布目ダム湖畔で昼食を済ませ、奈良市邑地町の茶畑の中にあるイワクラを見学。巨石が集まり、ドーナツ状に直径三十メートルほどの塊とな



邑地の磐座

っている。ここでも記念写真をとる。遠くから見ているとその大きさをあまり感じないが、前に人が立つとその巨大さを実感できる。人が「アリのよう」というとちよつとオーバーだか、そんな感じさえ受ける。

京都府笠置町に抜ける道をバスは北に向かう。途中の道端の「阿対(あたや)の地蔵」を見学し、2日間の研修ツアーもクライマックスに近づく。笠置カントリークラブの中を通り抜け、バスがやつと通れる山道を十分ほどで笠置山の山頂に着いた。そこに笠置寺があった。これが、笠置山のイワクラ見学コースの入口となっている。

「説明をさせていただきますしよつか」と声をかけていただいたのが、小林住職さん。「ここには神社やお寺があります。元々はこの山の巨岩を信仰の対象としていました」という説明に、イワクラ研修ツアー参加者も納得。あとで、この小林住職さんが30年ほど前に山添村で教鞭をとっておられたことがわかり奇遇に

驚く。

林立する巨石、巨岩の一つひとつに「すごい」「おー」などの声をあげながら、約1時間かけてコースを一周。「昨日、今日と本当にいいものを見せていただきました。参加してよ

かった」という伊藤さんの言葉が参加者の思いを代表していたのではないだろうか。

(了)



笠置山の磨崖仏

イワクラの道については、イワクラ  
(磐座) 学会学術誌「イワクラ」のⅡ  
に収録されていますので参照してく  
ださい。